

〔そのとき、イエスは弟子たちに言われた〕「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。わたしにつながっているが、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。一中略一 わたしにつながっていないさ。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていないければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていないければ、実を結ぶことができない。わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。」-ヨハネ 15 章-

キリストにつながる

被造物が存在するのは、一つ一つの存在が「神の栄光」を現すためです。神の栄光を現すために、存在は創造された「神の心」を生きるのです。神はご自分の心を自然界の中に「秩序」をもって与えておられるからです。

無力な赤ちゃんは、母親をすべてとして生きています。そのように、およそ 200 年前、産業革命がおこるまでは、地球は人間が出すゴミでさえすべて自然に帰ることで生命の循環が保たれていました。しかし、産業革命以降、力がついた子供が一人で大きくなったような顔して親を必要としなくなったように、豊かさを目指して人類がひたすら求め続けた欲望の結果、神さまの手による宇宙の秩序が無視されて、今、自然の回復は飽和状態に達し、かつての預言者ならぬ科学者をして「地球の崩壊」と言わせるまでに環境破壊は深刻化しているのです。

これは、豊かさを目指した、消費と競争社会を無批判に生きた「人類の罪」であり、みんな加害者であり、みんな被害者となって、自ら摘み取らねばならない「神の義の実」なのです。

折しも、新型、及び変異コロナウイルスが、豊かさに「足る」を知らない私たち暴走者のストッパーとなって全世界に猛威を振るっている現実を、私たちはどのようなメッセージとして捉えているのでしょうか？



命を脅かすウイルスを敵視する以上に今、大事なことは、私たちの生活の中に神さまを取り戻すことではないですか？

親を必要とする赤ちゃんとなってこの世に来られ、道を誤った私たち人類に正しい「道しるべ」となるために、生涯を御父の栄光を現す生き方を貫いて父のもとに帰って逝かれた主イエスにつながることです。

これからの子供たちの将来を守るのは、私たち親の生き方にかかっているのですから。